

在宅医療・介護連携シンポジウム 実施計画書(案)

1	実施日	候補日：平成29年2月19日(日)、26日(日)
2	時間	14:00～16:00(午後で2時間程度)
3	実施場所	高松国際ホテル 瀬戸の間
4	実施目的	医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、多職種連携により在宅医療・介護を一体的に提供できる体制の構築を推進している。この一環として、本市の取組状況を地域住民に周知することを含め、地域における在宅医療・介護連携をテーマとしたシンポジウムを開催する。
5	対象者・人数	300名程度 ●一般市民100名 ●介護予防ボランティア30名(元気を広げる人等) ●在宅医療・介護関係者170名(医師会、歯科医師会等各職能団体、地域医療連携室、老会、包括、在宅医療コーディネーター、学生等)
6	当日のスケジュール・内容	1. 開会 2. 開会挨拶 3. 基調講演(1名) テーマ： 4. パネルディスカッション テーマ： コーディネーター(1名)： パネリスト(4名程度)： ・基調講演講師 ・吉澤委員長(高松市在宅医療連携会議) ・大西市長 ・医療コーディネーター 5. 閉会
	基調講演候補者	●落合 恵子 氏 (作家/東京家政大学人間文化研究所特任教授) 母を7年間介護。実体験を交えながら、「病を得た人もまるごと受け入れ、共に生きていくことができる社会でなくては」という思いで講演を続けている。聴講者の方もご自身の介護経験と重ね合わせ、涙ぐまれる方もおられるほどの説得力あるお話ということです。 また、在宅医療・看護に支えられながらの介護だったということで、東京都の看護協会が実施した講演会の中では、「医療スタッフから様々なことを学んだ」と語られていました。 【講師料】80万円+宿泊費・旅費など ●安藤 和津 氏 (エッセイスト) 自宅で実母を8年間介護。介護によるうつを経験しながらも、一人で抱え込まず、多くの人とわかちあうことが大切と講演やエッセイで述べられているようです。 また、介護を負の体験にせず、ポジティブに切り替える方法についても話されています。 【講師料】100万円+宿泊費・旅費など
7	広報の方法	広報掲載、定例記者会見、四国新聞(健康新聞)、医療機関等にポスター・ちらしの配布など

【今後の検討課題】

- 受付に係る用品準備・設置・撤去・運搬業務一式
- 司会者等の手配(手話通訳必要?)
- 開催後に概要をまとめたチラシを作成するかどうか?

必要経費(案)	単価	件数	合計
国際ホテル(場所代、演題等)	503,884	1	503,884
講師料(基調講演)		1	0
講師料(シンポジウム)	30,000	3	90,000
PRちらし	12	10,000	120,000
実施後まとめちらし			0
司会者			0
合計			713,884

